

Alzheimer Café Dementia Café

横浜市

「認知症カフェ参加者」の
実態に関する調査報告書

横浜市健康福祉局高齢在宅支援課

令和5年11月

目次

1. はじめに	2
2. 調査の概要	2
(1) 調査の目的	
(2) 調査の概要	
(3) 倫理的配慮	
3. 調査結果まとめ	3
4. 考察	4
5. 調査の結果	6
問1 認知症カフェ参加者の概要	
問2 カフェのこれまでの参加回数	
問3 カフェの情報の入手先	
問4 カフェまでの移動手段と所用時間	
問5 カフェに参加する理由	
問6 カフェに対する満足度	
問7 カフェに参加する前と後の変化	
問8 カフェに参加した感想 (自由記載)	
問9 カフェに期待すること (自由記載)	
6. おわりに	15
≪参考資料≫	
参加者向アンケート調査票	16

1 はじめに

認知症カフェは、「認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集う場」であるとされ、認知症の人や家族にとって居場所となるだけでなく、地域住民や福祉・医療専門職等と情報を共有し、理解し合える地域の関係者の連携の場ともなっている。

横浜市は、認知症の人と家族が安心して暮らせる地域づくりのひとつとして、認知症カフェの取組を2016年より進め、市内にはさまざまな認知症カフェが開設されている。

2019年に市内の認知症カフェの支援の実態と課題を把握するため、認知症カフェ運営者を対象にアンケート調査を実施した。調査結果から「認知症カフェの周知啓発」「運営スタッフの人員の確保と人材育成」などの課題が明らかになった。また、2020年より認知症カフェの運営支援をするため、市民向けの認知症カフェリーフレットの作成や人材育成につながる研修会を実施してきた。

今回の調査を通して、認知症カフェの実態を参加者の視点から把握し、認知症カフェの効果や課題について考察を加え、今後の運営に役立つ情報や運営のヒントを認知症カフェ運営者に提供することで、市内の認知症カフェの効果的な運営や活性化につなげていきたいと考える。

2 調査の概要

(1) 調査の目的

市内で実施されている認知症カフェの実態を参加者（認知症の人や家族、地域住民、福祉・医療専門職等）の視点から把握し、考察を加えて、今後の認知症カフェの効果的な運営の在り方や、運営支援の方法を探る。

(2) 調査の概要

ア 調査対象：2023年4月時点で開設されている「横浜市内の認知症カフェ」21箇所の参加者

イ 調査方法：郵送によるアンケート調査 運営者を經由して回収

ウ 調査時期：2023年3月（アンケート郵送）～2023年7月（回収）

エ 調査票回収状況：21箇所（発送数405通）

回収14箇所 計193人 回収率66.6%（認知症カフェの箇所数を元に計算）

（アンケートの協力を得た認知症カフェの運営主体内訳）

運営主体	箇所
地域ケアプラザ	8
介護サービス施設・事業所	2
医療法人	1
認知症の人と家族の会	1
住民ボランティア	1
その他（実行委員会等）	1

（参考）横浜市内116箇所（HP公開94箇所）の運営主体別の割合では地域包括支援センター（地域ケアプラザ）32%、ボランティア・地域住民24%、介護サービス施設・事業所14%、NPO法人7%、医療機関4%、認知症の人と家族の会2%となっている。

(3) 倫理的配慮

調査対象者には調査目的、方法、匿名性の確保、結果の公表等についてカフェ運営者を通じて文書で協力を依頼し同意を得た。調査に関しては、個人が特定できないよう、データの入力、保管を行い、プライバシーの保護に配慮した上で実施している。

3 調査結果まとめ

本調査は、今後の認知症カフェの効果的な運営の在り方や、運営支援の方法を探ることを目的として、参加者（認知症の人や家族、地域住民、福祉・医療専門職等）の視点から「認知症カフェ」の実態の把握を試みた。調査結果から見えてきたことについて、以下のとおりまとめる。

なお、詳細な調査項目ごとの結果については、「5. 調査の結果」に記載している。

①認知症カフェまでの移動手段

- ・問4 「カフェまでの移動手段と所要時間」について、「徒歩」が118名（約61%）であり、半数以上が近隣からの参加であった。

②認知症カフェに参加する理由

- ・問5 「カフェに参加する理由」について、「自分の健康のため」が106名（約55%）、「楽しい」が77名（約40%）、「認知症について知りたい」が62名（約32%）、「友人知人に会える」が61名（約32%）、「同じ立場の人と話したい」が54名（約28%）など、自分自身の健康、認知症に関する情報を得ること、友人・知人とのふれ合い等を目的とした参加が多いことが分かった。

③認知症カフェが参加者に与える効果

- ・問8 「カフェに参加した感想」より、本人・家族・地域住民について、それぞれ以下の効果があると思われる。

本人	家族以外の人との関わりや娯楽を楽しむことができる。
家族	自分の思いを同じ境遇の人に吐露し気晴らしができる。また介護の体験談を参考に心構えができる。認知症の学びや理解を深める機会となっている。
地域住民	身近な地域で住民同士が情報交換や楽しみを共有し顔馴染みになれる。認知症について自分事として捉え学ぶ機会となっている。

④参加者の認知症カフェに参加する前と現在の変化

- ・問7 「カフェに参加する前と後の変化」について、「人と話す機会が増えた」が93名（約48%）、「外出の機会が増えた」が70名（約36%）、「友人知人が増えた」が63名（約33%）の順で多かった。
- ・問9 「カフェに期待すること」について、「認知症カフェの継続」を望む回答が最も多かった。また、「認知症に関する情報の提供」や「楽しいプログラム」を望む回答も多かった。

⑤参加者の認知症カフェに対する満足度

- ・問6 「カフェに対する満足度」について、「満足している」が114名（約59%）、「やや満足」が51名（約26%）と約9割の参加者が満足していることが分かった。

4 考察

調査結果からは、認知症カフェが地域に定着し、参加者の行動に良い影響を与えている、という横浜市の認知症カフェの実態が見えてきた。また、認知症カフェが認知症についての学びや情報共有の場であり、参加者同士が理解し合える場となっていること等を確認することができた。

横浜市では、認知症カフェの立ち上げにあたって、設立の条件等を設けていない。「認知症」に関する要素を取り入れているカフェであれば、活動の内容やカフェの形態は自由で良いとしている。

それを踏まえて調査結果を見てみたい。

まず、認知症カフェまで徒歩で移動している方が半数以上であることから、多くが近隣の地域からの参加者であり、認知症カフェが地域に根差したものとなっていることがわかった（4①認知症カフェまでの移動手段）。

さらに、認知症カフェに参加する理由としては、自分自身の健康、友人・知人とのふれ合い等を目的としているほか、「認知症について知りたい」など、認知症に関する情報を求めて参加していることもわかった。これは、参加者の認知症カフェに参加する前と現在の変化として回答している内容と合致している点が多く、認知症カフェに参加して得るものが期待どおりであり、また、それが継続参加への動機ともなっていることがわかる（4②認知症カフェに参加する理由、④参加者の認知症カフェに参加する前と現在の変化）。

加えて、参加者の認知症カフェに対する期待では「認知症カフェの継続」が最も多く、認知症カフェが地域で暮らす人たちにとって必要な居場所（社会資源）であることがわかった。

前述したとおり、横浜市では比較的自由に認知症カフェを運営していただいているが、認知症カフェが地域の中で、認知症の人や家族にとっての身近な居場所として機能していることが、これらの結果から伺うことができる。

そして、参加者の認知症カフェ満足度では、約9割の参加者が満足しているという結果になった（4⑤参加者の認知症カフェに対する満足度）。これは、それぞれの認知症カフェにおいて、変化のあるプログラムを取り入れたり、参加者同士の交流を促したり、認知症に関する情報の入手ができたり、運営スタッフが親切に対応したりしているなど、認知症カフェ運営者の方々がさまざまな取組や工夫をしていることが満足度につながっているものと考えられる。

認知症カフェの運営主体は様々であるが、それぞれに認知症カフェの役割を理解し、試行錯誤して運営していただいているものとする。その結果として、参加者の9割が満足しているということは、運営者の皆さまの努力の賜物であると感じる。

一方で、本調査を踏まえて見えてきた課題についても挙げていきたい。

まず、参加者に20代～30代の若年層の世代がほとんどいなかったことである。認知症カフェの情報が十分に行き届いていないことが理由のひとつとして考えられるため、今後、若い世代が情報収集する手段として活用しているSNS・インターネットなどを通じた認知症カフェの啓発を行っていく必要がある。

本市では、2019年に認知症カフェの運営者を対象にしたアンケート調査を実施しているが、その際の調査結果からも認知症カフェの周知啓発が課題となっていた。今後、若年層を含め、幅広い世代に認知症カフェを周知・啓発していくことに、重点的に取り組むたい。

また、今回の調査では認知症カフェの継続を望む声も多く聞かれたが、認知症の人や家族にとって重要な社会資源である認知症カフェの「継続」も大きな課題の一つである。地域に定着して参加者に良い影響を与えてくれているカフェをどのように存続させていくか。

まず、継続のために認知症カフェの運営を行う担い手の育成が重要であるとする。若い世代に周知・啓発し、興味を持ってもらうことで、ゆくゆくは担い手としての活動へとつながっていくことにも期待したいが、なかなかすぐには啓発の効果は出てこないだろう。

そこで、認知症カフェ同士のつながりに着目したい。それぞれの認知症カフェの良いところや課題をお互いに共有することで、課題解決の糸口を発見できることがあるだろう。

今後、本市では、運営支援の方法のひとつとして、カフェ同士のつながりを深める取組にも力を入れていきたい。

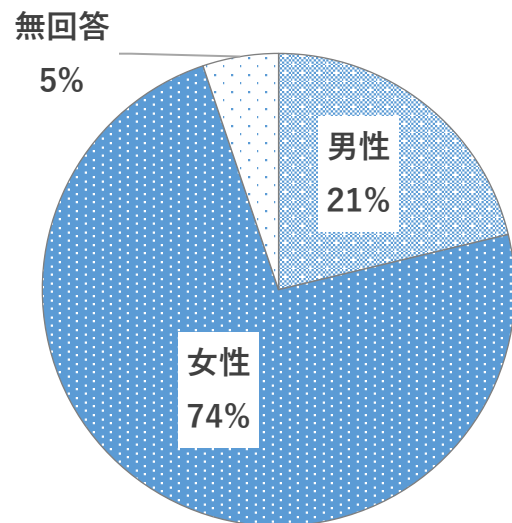
5 調査の結果

問1 認知症カフェ参加者の概要

(1) 参加者の性別

N = 193

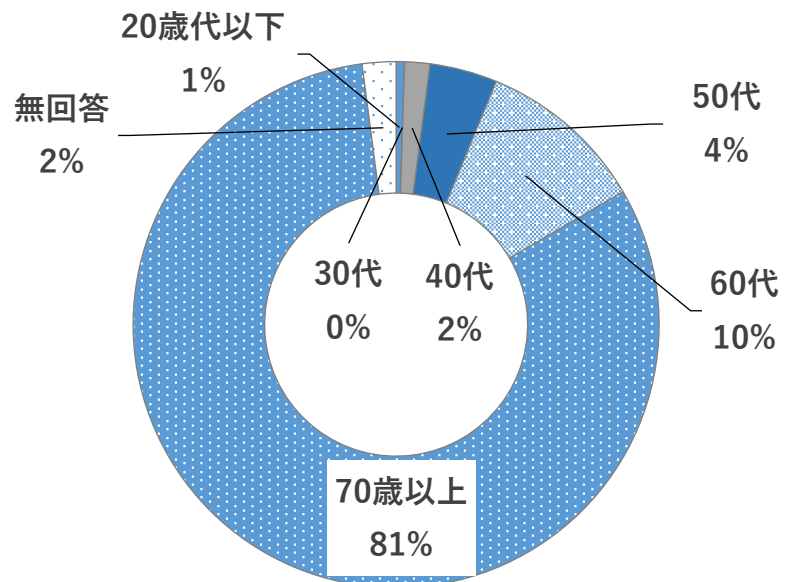
男性	41
女性	142
無回答	10



(2) 参加者の年代

N = 193

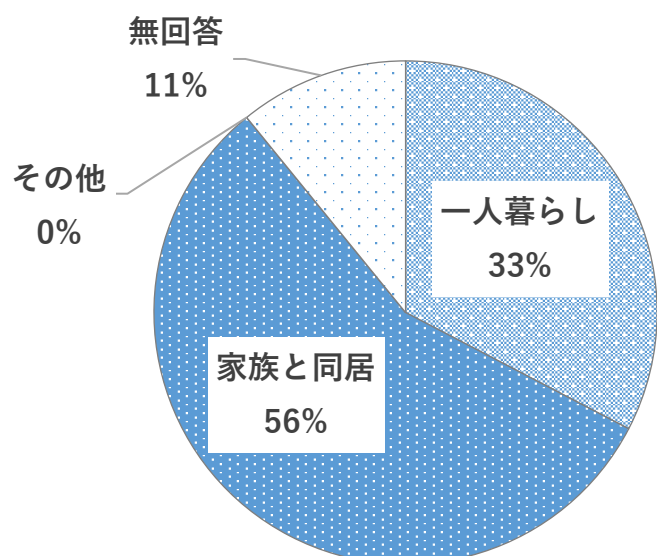
20歳代以下	1
30代	0
40代	3
50代	8
60代	20
70歳以上	157
無回答	4



(3) 居住形態

N = 193

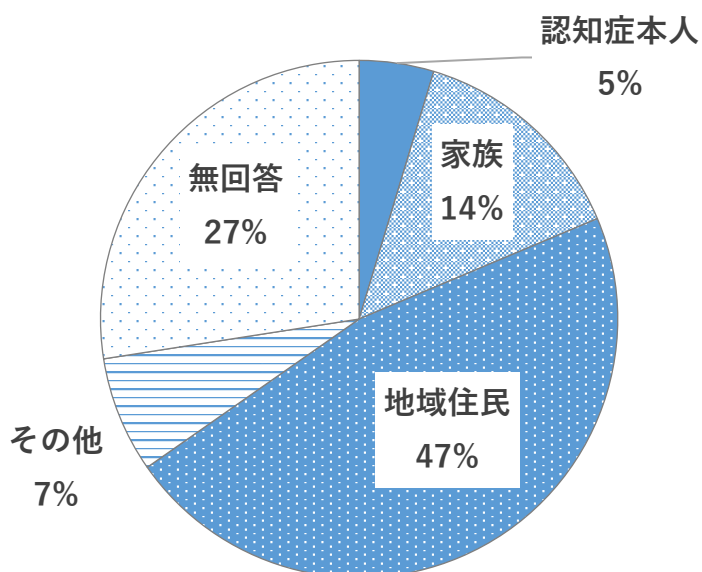
一人暮らし	63
家族と同居	109
その他	0
無回答	21



(4) あなたの立場

N=193

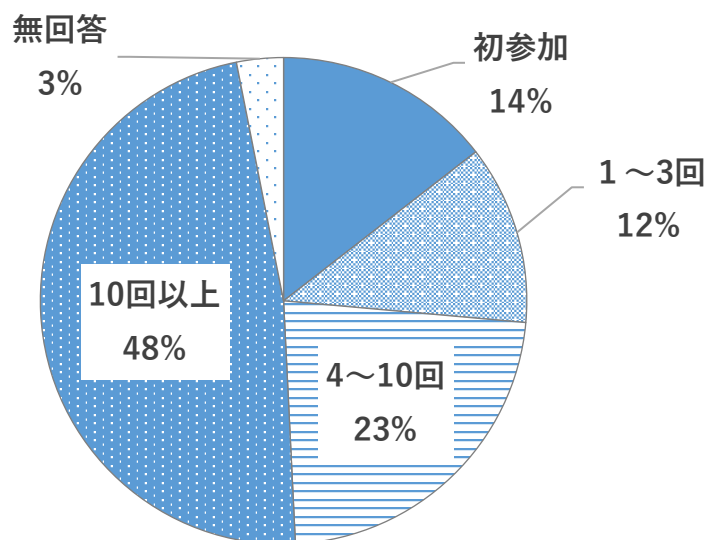
認知症本人	9
家族	27
地域住民	90
その他	14
無回答	53



問2 カフェのこれまでの参加回数

N=193

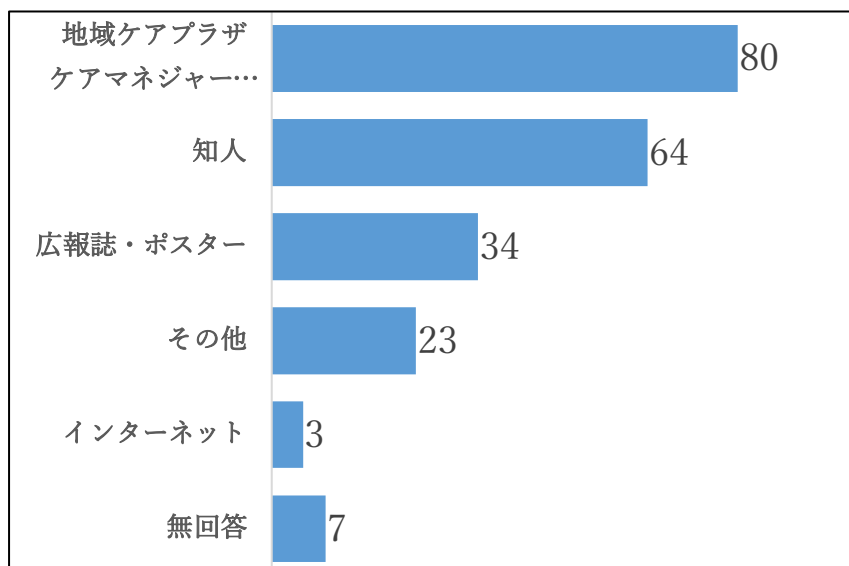
初参加	28
1～3回	23
4～10回	44
10回以上	92
無回答	6



問3 カフェの情報の入手先 (複数回答可)

N=193

地域ケアプラザ ケアマネジャー 民生委員	80
知人	64
広報誌・ポスター	34
その他	23
インターネット	3
無回答	7

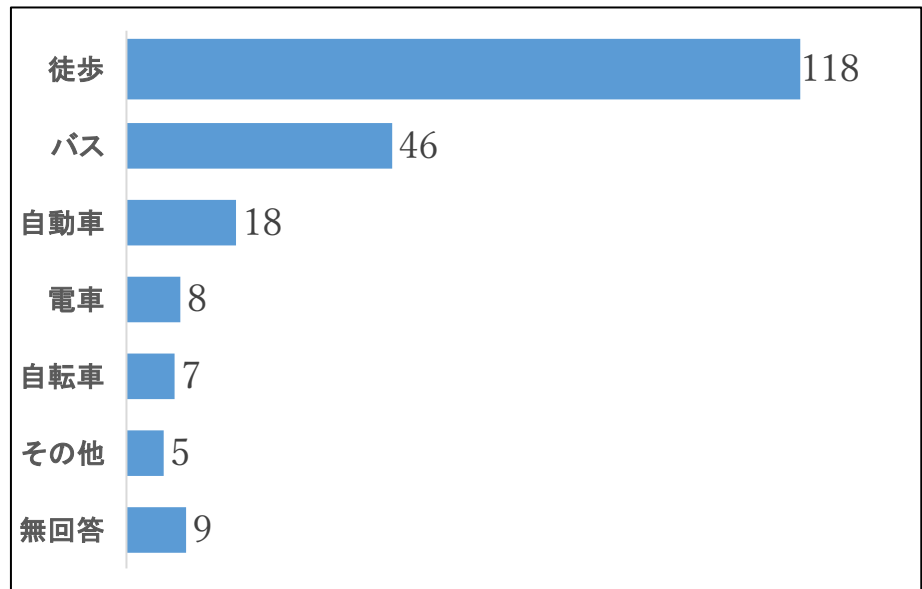


問4 カフェまでの移動手段と所用時間

(1) 移動手段 (複数回答可)

N = 193

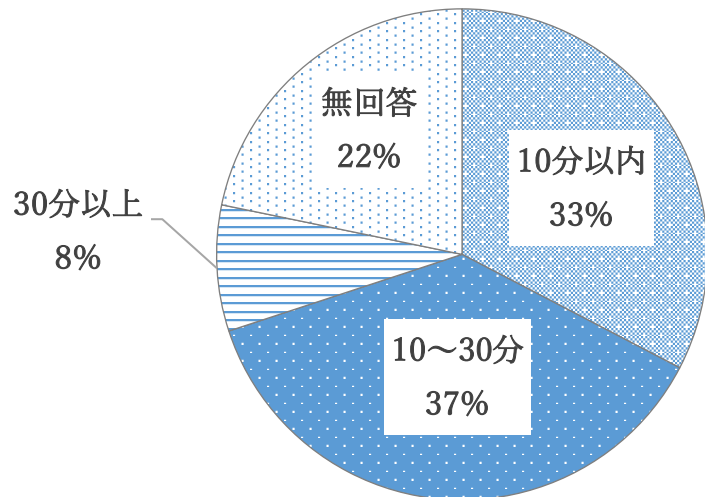
徒歩	118
バス	46
自動車	18
電車	8
自転車	7
その他	5
無回答	9



(2) 所用時間

N = 193

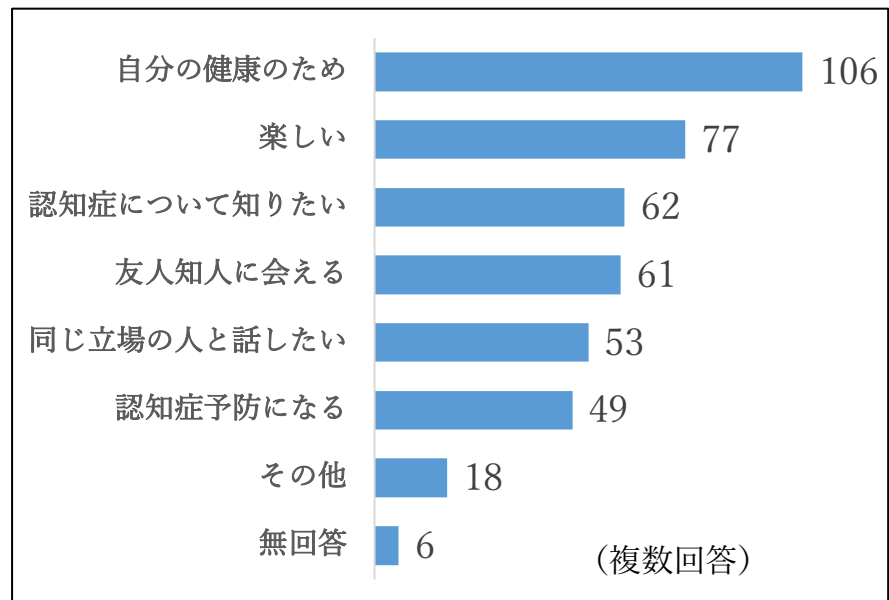
10分以内	63
10~30分	72
30分以上	16
無回答	42



問5 カフェに参加する理由 (複数回答可)

N = 193

自分の健康のため	106
楽しい	77
認知症について知りたい	62
友人知人に会える	61
同じ立場の人と話したい	53
認知症予防になる	49
その他	18
無回答	6

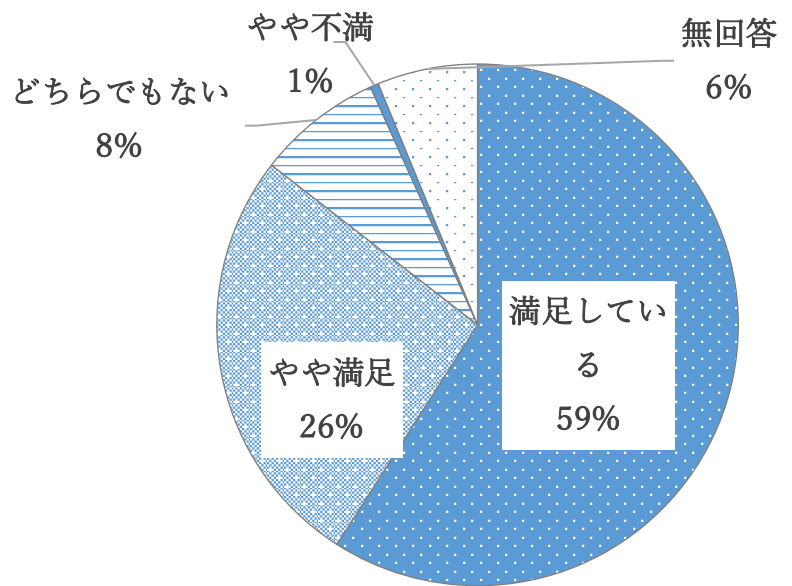


「その他」の内容
・自分の知らないいろいろなたくさんの人に出会える
・交流の機会
・役に立つことができている
・ボランティア活動
・勉強のため
・介護が終わった為、お話を傾聴
・暇つぶし
・皆さんの手助けができるといいなと思った

問6 カフェに対する満足度

N=193

満足している	114
やや満足	51
どちらでもない	15
やや不満	1
不満	0
無回答	12



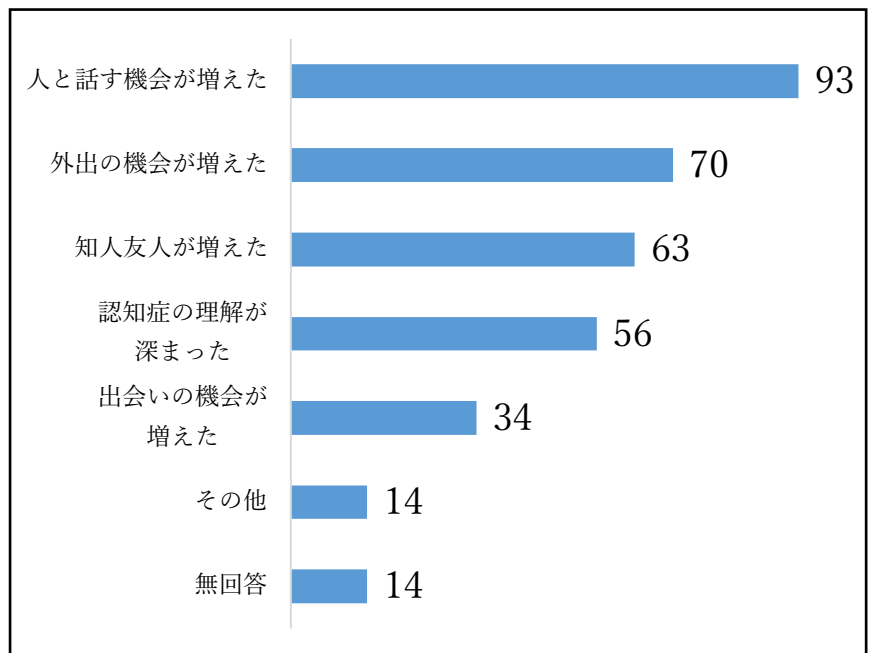
「満足している」と回答した理由
・同じテーブルになった人同士で気軽に話ができる
・毎回とても楽しいです。また参加したいと思います
・いろんな方との交流を通じて学ばせていただいているので
・自分自身のこと考える機会
・スタッフの方々がとても明るく親切です
・身近な歌がいっぱい
・毎回色々なことで楽しませていただいています
・係の方々が皆さん優しい
・皆さん親切です
・みんな親切に色々教えてください
・毎月楽しい一時を過ごさせていただいています
・自分と同じ悩みを持っている家族の人と交流でき、安心につながる。認知症の知識が身につく。ネットワークができた
・毎回色々な新しいことを聞くことができる
・食事がおいしい。経験豊かな人の話が聞ける
・多くの人と話せるので勉強になる

・主催者の情熱と実行力のすばらしさに共感できるから
・親切に教えていただける
・交流の機会をいただきありがたいです
・月1度色々なお方と会いお話ができるのでとても楽しいです
・出掛ける場所があること。知人たちとの会話
・参加して良かった。いろいろ知ることができて助かります
・いろいろなテーマの講座、レクを取り入れてくれている
・色々な人達と話ができる
「やや満足している」と回答した理由
・色々な情報が入手できる
・コロナ以前のような会(人との交流等)が戻っていくといいかな
・皆さんと歌が歌いたい
「やや不満」と回答した理由
・その時々で感じることもある

問7 カフェに参加する前と後の変化（複数回答可）

N=193

人と話す機会が増えた	93
外出の機会が増えた	70
知人友人が増えた	63
認知症の理解が深まった	56
出会いの機会が増えた	34
その他	14
無回答	14



問8 カフェに参加した感想（自由記載）

当事者
・老人サークルを通して、カフェを知り参加し始めました音楽の演奏が毎回楽しみです
・穏やかな時間を頂き、いつも安心して楽しくおしゃべりをしています
・人と関わる機会があって良かった
・参加しても特に変わらないと話されるも楽しまれていた（代筆）
・素晴らしかった。もっと回数を多くしてもらいたい。

家 族
・認知症の家族を外出させる機会がほしかった
・大勢の方が参加され驚いた
・初めて参加させて頂き、大変参考になるお話を聞かせて頂き良かったです
・認知症の知人のことで認知症のことを色々知りたかった時、講習会の参加をきっかけにこの場所を教えていただいた
・皆さんのお話とても参考になっています
・これから先を考えると頭が痛いなと思っています
・家族の方々にお話を伺えた事が良かった
・介護に役立つ情報が多く参考になる。悩みを口にする事で、肩の荷が降りる。親切にしてもらい、大変ありがたい。困ったときに気軽に相談できる人がいて、大変助かった。
・認知症の理解が深まった。介護の方法について、学ぶことができた
・一人暮らしのため、色々と相談に答えてもらい助かっている
・同じ立場の人との出会い
・大変ためになる
・カフェを運営する方達がとても熱心なことに心を打たれています。認知症も色々な種類があり、一人一人違うので、直接(すぐそのまま)役に立つというわけにはいかないように思います。でも、私がすごく困って、どうしようという時に、皆さんにお尋ねしたら、色々な対処法などを教えていただきありがたかったです。参加しているうちに、新しい友達もできてそれもうれしいことです
・お話の最中に少しガサガサ音がするので、気になりました(バックヤードで働いている人の音)扉を閉めるのもありかも?又、マスクを外して話す事も検討されて良い(認知症になると集中力、理解力が低下するので)のではと思いましたあと、資料をもう少し大きく印刷していただきたいです(老人は目が厳しいので)
・気持ちがほぐれる
・母の介護をしている立場で、いろいろな方の経験談等、参考にさせて頂いている
・毎回楽しみにしております。役員の方、感謝です
・色々な事が聞けていいです
・それぞれ介護の仕方等、参加者の皆様のアドバイス等があり、参加して良かったと思う
・介護をする側として、同じ立場の方と知り合いになりたいと思い参加しました
・1人では抱えきれない思いを話し少し楽になれる。認知症の進行に伴う変化を経験者から聞くことができる
・楽しい会話が多い
地域住民
・どういう風か見たくて来ました
・どんな人に会えるのか楽しみだから
・時間が経つうちに、みなさんの表情も明るくなり、楽しく参加できた
・ゲームに参加、楽しい時を過ごせましたありがとうございました
・いつも楽しく参加させて頂いています
・皆さんと楽しく話げできました
・音楽もあり楽しいも身につまされる日も
・家にいたのではわからない事ばかり。参加させていただき勉強になりました
・コロナ禍で外出が自由にならない時期に月1回の参加が楽しみになり、感謝致しております

・いつも明るい気分になる
・毎月とても楽しいです
・認知症カフェ楽しみにしてきている
・家にいると話し相手がいない
・楽しい時間を持ちたいので
・楽しく過ごさせていただいております。ありがとうございます
・友人、知人がいて楽しい
・とても楽しく過ごせました
・年季の入ったギター演奏、素晴らしかったです。
・色々お話を伺えて、視野も広がってくると感じます
・自分自身が注意するようになった
・症状も様々の方たちですが、こちらのほうが癒されています
・ボランティアと思い参加していますが、相手の方からメッセージを頂くことが多く、逆にエールを頂いていることが多く、生きる力になる事が大きい
・地域の情報、福祉情報を知ることができました
・人と話ができる認知症患者が対象とは知らなかった。医師の話が聞けるので良い（役に立つ）
・地域の事を知る機会となった
・数か所の Café のお手伝いあるいは地域支援センターとともに Café を実施しているが、地域ごとで支援センター毎に人柄・運営方法・基本的考え方が異なり興味深く楽しんでいる
・第一に楽しい事
・久しぶりに大勢の方々と（コロナ）お会いでき久しくお話を聞いたり、喋ったりでき久しかった言葉も忘れるくらい久しぶりにお話でき、また（マジック）も楽しく頭の中も活性化したような楽しさでした
・生でマジックを見る機会がないので、貴重な時間でした楽しかったです
・人と話したり聞いたり楽しい
・手助けになると思える事が嬉しい
・スタッフとして、皆さんに参加してもらいたい
・認知症を身近なものとしてとらえる事ができた
・前向きに元気で楽しい生活ができるといいと思います
・今まで自分の知らなかった事を知ることがうれしい
・久しぶりに伺いましたまた。機会をみてまた参加したい
・認知症について知識を少し増えたかな
・勉強になるし、楽しいスタッフの皆様に感謝してます
・楽しいです
・楽しい事がたくさんある
・勉強になることと、いろんな方との話が楽しい。消防署や包括との顔なじみになれば、相談しやすい
・情報交換も含め、ためになる
・踊りの先生や文学的趣味の人と話せて新鮮だった。お茶屋ケーキやあんみつのデザートも 100 円では安く楽しかった
・友達と話をしたり、折り紙や歌を教えて頂き楽しい時間を過ごし、脳の活性になっている
・多くの人達と交流したいので参加しました
・楽しかった
・その他（専門職、ボランティア等）

・毎回いろいろしてくれて楽しく過ごせますこれからも宜しく願います
・いろんな事をお話ができる素敵な機会であると思います
・心のつながる暖かい雰囲気
・色々な内容（取り組みの）があることが分かり興味深い。当カフェはエンタメ系で受身的なカフェかと考えていたが楽しみに参加する方を見て、意義あると感じています
・友達に誘われた
・今後も人との交流を図りたいです
・人と会える事
・2回目参加なのでまだよく分かりませんが、昼間1人で過ごしているのが多く、この頃家に1人でいると
・認知予防のため。友達に会うのが楽しみ
・自分の知らない世界が広がった。色々な人に会える。今までにあまり参加が無かったから。
・外出の機会
・昔懐かしい遊びがたくさん用意されていて、楽しかった。あやとり、昔はたくさん遊んでいましたが忘れていました。また、思い出しながら家で楽しみたいと思います
・とっても楽しかったので、次回もあったら是非参加したいです。
・自分自身のルーティンに役に立つ
・家庭で高齢者とばかり思われて寂しい思いをすることがあるので、なんとなく楽しく思います
・人との出会いと友達が増えたこと
・今回は大変満足しました。ありがとうございます。元気をいただきます。エレキ演奏最高でした
・利用者の方が楽しまれたゲームや歌にいっしょに参加できた喜び
・まんねり
・昔のことがよみがえって…
・楽しい運動ありがとうございました。脳トレも入っていて、難しいけれど助かります
・1人で居るので楽しかった

問9 カフェに期待すること（自由記載）

・毎回コーヒーとてもおいしいです。また、楽しい企画をお願いします
・今日のような遊びが良いと思います
・今後も継続してこのような場が広がっていけば良いかと思います
・介護する側の気持ちや接し方を知りたい。そして、介護生活を送る心得等、勉強していきたいです
・小さなコンサート他、楽しい集まり
・今まで通りであってほしい
・これからも色々イベントをやってください
・認知症の勉強会もいいですね
・たくさんの人に、知人や友人ができるといいですね
・持続してほしい
・皆で歌う事も良い事ですが、先生の演奏をたっぷり聞きたいと思います 演奏のみの会があっても良い
・「認知症予防」が薄れないよう、所管役所からの情報提供等をもっとしてほしい
・健康向上の為、啓発してほしい

・皆様の経験話を聞きたいです
・認知症は各々別々。全部が同じで役に立つ事は少ないが、部分ぶぶんをつなぎ合わせる事が大事。色々なケースを知りたい
・男性介護者がもっと参加してほしい。外部講師による認知症の勉強会があればと思う
・月1回の食事も提供してくれたカフェが良かった。コロナで提供なくなったが、再開できることを希望
・これからも参加したいのでカフェを続けて欲しい
・色々な遊びを通して、皆様の気持ちがほぐれること
・担当者が変わり形が変わってもカフェは続けて欲しい
・カフェの継続、発展
・今まで通りでお願いします
・地域の方々がブラっと参加でき、お仲間と語り合えるカフェであって欲しい。リーダーになる方は多いけれど、リーダーシップを発揮できる方は少なく、継続してくださることを望みます
・これからも長く続けていけると良いと思います
・こういう講座を増やしてほしい
・継続していければ幸いです
・認知症以外の事もお願ひ致します
・他の当事者の方ともっと交流できるようになれば良いかなあと思いました。（対話タイムがあると良い）
・今までのように続けてほしい
・歌を唄いたい
・1日も早くコロナ禍前の参加者皆さんと自由にお喋りのできる本来の形式に戻ってほしい
・参加者が増えること
・スマホを学べる機会
・これから活発にやって頂けるよう望みます
・コロナに負けず、ビシビシ以前のようにやれるといいですね
・コロナ禍で以前と状況の変化がありました。（できること、できないことがあります）今後も皆さんが気軽に参加できる会になればと思う
・認知症の方や家族の方々が少しでも明るく過ごせる時間になればよい
・もっと参加する人が増えてほしい
・毎回参加する事がより楽しみになるよう期待する
・認知症の学びとゲーム等、みんなと交流したいので継続してほしい
・気軽に参加できるように
・もっと多くの方の参加を期待する
・多くの人（得意のある人）に参加してほしい
・これからも認知症に携わる人や認知症に悩んでいる人の出会いの場やまた文化的な人も広くくつろげるような集まりの場にしてほしい
・近くで利用していますので、とても幸せに思っています。長く続けて頂きたいと思います

6 おわりに

本調査から、「横浜市の認知症カフェ」は地域に定着し、地域住民にとって必要な社会資源の一つとして活用されていることが分かった。認知症カフェのような認知症本人や家族の居場所は、高齢者の5人に1人が認知症高齢者となることが予想されている超高齢社会において、ますます重要なものとする。本市では、今後も地域の中で認知症カフェが継続していくために、認知症カフェの運営に役立つ研修を実施するとともに、幅広い世代の人々にも興味・関心を持ってもらえるよう、認知症カフェ、ひいては認知症についての啓発を一層進めていきたい。

なお、本調査においては、市内認知症カフェの全数が調査対象ではなかったため、認知症本人や家族から得られた情報が少なかった。認知症カフェは認知症の人と家族が安心して暮らせる地域づくりのひとつとして重要な認知症本人や家族の居場所であるため、今後も認知症カフェに関する調査を定期的に行いながら、より多くの認知症本人や家族のニーズを掘り起こし、認知症カフェの運営に反映していきたい。

本調査の実施にあたっては、多くの認知症カフェ運営者及び参加者の方々にご協力を頂きました。アンケートに回答して下さった皆さまに厚く御礼申し上げます。

今後も、皆様のご意見をお伺いしながら認知症カフェの運営支援を進めてまいります。

この度は、アンケート調査へのご協力、本当にありがとうございました。

横浜市 認知症カフェ参加者向けアンケートご協力のお願い

令和5年3月

問1 あなたのことについてお答えください(あてはまるものに 印)

【性別】 男性 女性

【年代】 20歳代以下 30代 40代 50代 60代 70歳以上

【暮らし】 一人暮らし 家族と同居 その他()

【あなたの立場】認知症の人 認知症の人の家族 地域住民 その他()

※どなたかが代筆される場合 代筆者の立場

(例:妻、夫、友人、カフェスタッフ等)

あなたが参加している認知症カフェについて

問2 カフェにこれまで何回参加していますか。

初参加

1~3回

4~10回

10回以上

問3 カフェの情報をどこで知りましたか。(あてはまるものすべてに)

知人の紹介

地域ケアプラザ・ケアマネジャー・民生委員からの紹介

広報誌・ポスター

インターネット その他()

問4 カフェまでの移動手段と所要時間を教えてください。

【移動手段】 徒歩 自転車 バス 電車 自動車 その他

【所要時間】 10分以内 10~30分 30分以上

問5 カフェに参加する理由を教えてください。(あてはまるものすべてに)

認知症について知りたい

友人知人に会える

同じ立場の人と話したい

認知症予防になる

自分の健康のため

楽しい

その他()

問6 カフェに対する満足度について☑をつけその理由を教えてください。

満足している やや満足 どちらでもない やや不満 不満である
(その理由) { }

問7 参加する前と現在の変化についてあてはまるものすべてに☑をしてください

外出の機会が増えた 人と話す機会が増えた 知人友人が増えた
認知症の理解が深まった 同じ立場の人と出会えた その他

問8 カフェに参加した感想

(自由記載)

問9 カフェに期待する事

(自由記載)

横浜市

**「認知症カフェ参加者」の実態に関する
調査報告書**

発行：令和5年11月

発行者：横浜市健康福祉局高齢在宅支援課